

---

# 愛しい人よどこにいても幸せでいて

純

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛しい人よどこにいても幸せでいて

### 【Nコード】

N6529A

### 【作者名】

純

### 【あらすじ】

初めて出会った公園。初めて繋いだ手。最後のキス。最後の言葉。世界一好きだった人。私の分まで幸せでいて。

## 悠哉へ

ずっと一緒にいてね。大好きだよ。

「どんな事があっても俺の気持ちは、変わらんからな。」

あなたに会えて、本当の愛をしった。世界で一番好きだった人。だから、ケンカしても、乗り越えた。別れても、また一緒に居れた。何よりも、誰よりも、愛してた。あなたは、もう側にいてくれない。もう、抱きしめてくれない。もっともつと一緒に居たかった。抱きしめてほしかった。もっと、愛してほしかった。一生一緒にいる事は、ないと思う。

会うことも、ないと思う。

だから、笑顔でサヨナラいいたかった。ありがとって伝えたかった。

沢山、迷惑かけた。だから、ごめんねっていいたかった。悠哉に、まだ伝えたい事が、沢山あるんだよ。

ねえ、悠哉。もう一度、私にチャンスをくれないかな？

また、あの時みたいに、笑い合いたい。一緒にいたいよ。

## 第1話 悠也と会つまで

中学2年

「ああ、男欲しいなあ。綾、いい人おらん??」

「ええ。将とかわ??」

綾とは、小6からの仲。将は、綾の元カレ。

「でも、元カレじゃん!!」

「べつに、もう別れたんだし、いいじゃん。」

「嫌なら、他探しなよ」

まあ…べつに、別れたんだし。いつか!!

「綾、将の番号教えて!!」

その夜、私は、軽い気持ちで将に電話した。

ブルブル

「誰?」

「純やけど…」

「どうしたん??」

「前からすきやってん。だから、つきあってほしいねん。」

「うん。いいでー!!」

なんか、あつとゆう間。それから、将とは連絡も取らず、カレカノ

らしい事もせず、3週間で終わった。

そして、一周間後、また違う彼氏ができる。

悠哉と出会うまで、11人の人と付き合った。

本気じゃない人とも付き合った。

中には、本気の人もいた。

でもたいていは、1ヶ月で終わる。

男がいなくてゆうことが私の中では、あり得ない事だった。  
中学2年の時、違う学校の政に出会った。

けっこう、本気だった。

政と居るとき素直になれた。優しくくなれた。

政は、大人っぽく、静かな人だけど、私は、そこが好きだった。  
ある日、親に凄く怒られた時があった。

理由は帰るのが遅かっただけ。

それでも、親は心配して、探してくれてた。

こっぴどく怒られ、いつものように外出禁止。  
普通だったら、みんな無視するかもしれない。  
でも、そんな事したら殴られる。だから、守るようにしてた。

とにかく、政にゆわなくちゃ。

携帯をもち、電話を掛ける。  
プルプル

「もし？」

「政あ、純、外禁なつてもたあ…」

「は？なんで？」

怒ってる…

「帰るのが遅かったから…」

「いつ直るん？」

「わかんない。」

はあ…なんでこんなことになるんだろう。  
もつと早く帰つとけば良かった。

「ごめん。だから外禁直るまで、会えない。」

「そっか。でも、俺直るまでまつとくわな！！これからは、ちゃんと帰るんやで！！」

え…まつてくれるんだ。

政の以外な反応に私は、ビックリしてた。  
でも、凄く嬉しかった。

政と付き合えて良かった。ってこの時初めて思えたんだ。

「ありがとう！！！！」

「当たり前だろ！！？」

「うん！！！」

少し照れながら私は答えた。

「じゃあ、切るな！！！」

「わかった！！バイバイ！！！」

それから、政と連絡もとらず、3週間が過ぎた。

その頃になると、私の外禁もなくなった。

政に会える！！！！

頭の中は、政に会える嬉しさでいっぱいだった。

とにかく、政に外禁がなくなった事を伝えなきゃ！！

なんだかワクワクしてきた！！

だって、話すのも3週間ぶりだから。

急いで携帯をてにとり、電話を掛けた。

ブルルル

ツーツー…

??

え？

もういっかい掛けてみる。

ブルルル

お客様のおかげになった電話番号は…



電源きつてる??

さっき、かかったよね?

わざと?

頭ん中が混乱しはじめた。

30分後もういつかい掛けてみた。

ブルルル

つながった!!!

auお留守番サービスに…

でない。

意味わかんないよ。

頭ん中真っ白で気がついたら、綾に電話してた。

「じゅん??どうしたの??」

心配そうに言う、綾の声が聞こえた。

「綾？政に電話出ろってゆってほしい。」

綾と、政は以前からの友達だ。綾のおかげで、私と政は出会えた。

「なんで？アイツ出ないの??」

「うん。電話切るし、電源切るし、出ないし。」

「そっか…、いちようアイツに純に電話しろ！！ってゆつとくね！！」

「わかった。ありがとう。」

そういつて電話を切った。

2・3分もたたない内に私の携帯がなった。

ブルブル

政だ。

「はい。」

なんだか冷たい言い方になった。

「ごめん。電話でれんくて。」

「なにしてたん？」

「親おつたから…」

政の家は、厳しく、恋愛すらも、今の私達の年代では早すぎるといつている。

だから、政の親には、内緒で付き合っていた。

「そつか!！」

政の言い訳に私は納得。

なんだか安心した。

「純、外禁直つたで!！」

「まじで? やつたやん!！」

「うん!！」

「じゃあ、遊ぼうかあ!！日曜日あいてるか?？」

「あいてるよ!！」

「じゃあ、遊ぼうか!！」

「うん!！」

日曜日会つ約束をして、電話を切った。

やったあ

3週間ぶりに、政に会える！  
ほんと楽しみ！！

まじ、頭いかれるくらい、うれしくて胸がドキドキしてた。

次の日の朝。

今日は土曜日。私の携帯がなった。

ブルルル

綾だ。

「ん？」

「じゅんちゃん オハヨウー！！」

相変わらずテンションが高い。今何時だと、おもってんだよ。

「おはよお。」

「今日なにしてんのあ?？」

「なんにもしてない。」

「なら遊ぼうよあ!!」

「うん、いいよあ。でも今眠いから昼からにして。」

「わかった!!」

そういつて綾は、電話を切った。

そして、私は深い眠りについた。

プルルル

「…………んゝ誰だよあ」

見ると綾の文字が。

綾じゃん!!!

ってもう昼じゃん!!!

急いで電話にでる。

「もし？」

「今何時だとおもってんだよ。」

怒ってるうゝ

「はい。すいません。」

冗談混じりで答えた。

すると、綾も。

「君、ちゃんとしてくれないかね？会社首にしちゃうぞ？」

「ごめんちゃい。とりあえず、家入って!!」

「はああい」

ドアが開く音がした。

「おはよお!!」

「よ!!」

「てか、いつまでねてんだよ!!」

「ごめん!! 昨日夜更かししてさあ。」

昨日の夜、なんか嬉しすぎて、寝れなかったんだ。

「あっそうだ!!」

思いだしたように、私は言った。

「あれから、政から電話あったよ!!」

「そっか!! よかった!!」

「うん!! それで、でなかったのは、親がいたから。でも明日遊ぶ約束しちゃった」

「よかったねえ あんた、本当嬉しそうだ」

「うん」

その時

プルルル

私の携帯が鳴った。

政だ!!!

急に、どうしんだろう。

「もし?」

「純?」

いつもと、違う政。

「どうしたの?」



「俺、考えた。俺等、別れないか？」

は？

急に？

意味わかんない。

涙が溢れてくる。

「なんで？」

「だって俺等、学校違うし、あんまり会えないだろ？」

「これから、会えるようにしたらいいじゃん？」

「いや、それわ無理。」

なんで？ やっぱり、会えなかったから？ 本当に好きだったら、3週間会えない位でさめないよね？

本当じゃ、なかったんだ。

「やだよ。」

「ごめん。」

きつと、好きだったのは、私だけだったのかもしれない。

「うん。分かったよ。もう、いいよ。ばいばい」

「...ばいばい」

電話を切った。

私は、その場で泣き崩れた。

その時、綾が抱き締めて、こう言った。

「大丈夫だよ、純を本当に愛してくれる人、絶対いるから。純にあった人、また見付かるって。辛いかもしれないけど、何事にも、経験が大事だよ。」

うん。

そうだよね。

いつか、本当に愛してくれる人、見付かるよね。

きつと見付かるよね。

私は、それからあんまり人を本気に好きにならない。 って決めた。

だって別れる時辛いから。

人には、絶対、別れがあるんだ。

だから、信じちゃだめなんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6529a/>

---

愛しい人よどこにいても幸せでいて

2010年10月12日03時09分発行